

地域リハビリテーション支援センターだより (神奈川県リハビリテーション支援センター)

第51回 国際福祉機器展 2024.10.2~4

今年は、10月2日(水)から4日(金)の3日間、東京ビッグサイト東展示ホールで開催されました。併せて、Web展は9月2日(月)から11月1日(月)まで開催されています。

「福祉機器の今、未来をみて、さわって、たしかめる3日間」をテーマに、日常生活の自立促進と社会参加のための福祉機器、リハビリテーション機器や介護機器・用品など、多彩な福祉機器が展示されていました。また福祉機器や福祉分野の最新情報がよくわかるセミナーや体験企画もあり、たいへん充実した内容でした。

ちょっと気になる?! 福祉機器のご紹介

意思伝達装置(生体現象方式)

ダブル技研株式会社(写真はパンフレットより引用)

携帯用会話補助装置や文字等走査入力式の意思伝達装置の体験をしたことはあったのですが、今回は**生体現象方式**の体験をさせていただきました。3つの機種を体験させていただき、丁寧な説明もあり大変勉強になりました。

当センターに、コミュニケーション支援に関する相談が増えています。意思伝達装置というものがあることは知っていても様々な機種があり、機能や使い方、当事者への適応などで悩む支援者が少なくありません。

私たち支援者は、まずは当事者の強み(できることなど)やご要望をしっかり評価することが重要です。そのうえで、国内で販売されているほぼ全ての意思伝達装置を扱っているダブル技研さんに相談することも選択肢のひとつではないでしょうか。デモ機をお借りできますし、使い方も丁寧に教えていただけます。まずは当センターの、専門相談にご連絡いただければと思います。(有馬)



新心語り



Cyin (サイン)
サイバーダイン製



MCTOS (マクトス)
テクノスジャパン製



エニモ 株式会社ケーフ (写真は エニモ Mモデル HPより引用)

ポジショニング専用のクッションです。丸洗いが可能で従来の物より乾きが早く、お手入れが簡単になったようです。

セッティングが容易でありながら姿勢が崩れにくく、安楽で心地いい姿勢保持が可能だなと感じました。

施設にもデモ機も貸していただけるとのことですので、代用品ではうまくポジショニングできない時には、ぜひ試してはいかがでしょうか。(有馬)

MAZDA MX-30 Self empowerment Driving Vehicle

自分の意志で移動し行動するための新たな選択肢として、手動運転装置を搭載したモデルが紹介されていました。実際に車両の見学やハンドル操作体験をさせていただきました。

従来の手動装置と異なり、アクセル操作を足ペダルだけでなく、リング式アクセルを使用し、手でハンドルと一緒に操作することが可能です。また、手動運転機能と通常の運転機能の切り替えが簡単に行え、友人やご家族と気軽に運転を交代しながら使用できることが特徴になります。

この装置により、運転手が様々な状況や状態に柔軟に適應できる可能性を感じました。手動装置が特別なモノから、誰でも使用できる一般的なモノへ移行しており、運転は足で操作する時代から手でも操作できる時代へと変化しつつあることを体験を通して実感しました。(吉澤)



(写真は MX-30モデル HPより引用)

今回の研究大会は「地域リハビリテーション新時代 いざ地域へ！」のテーマのもと10月3、4日に開催されました。開催にあたり、新型コロナウイルスの流行が終息しても、以前の状況には戻ることは難しく、従来の枠組みにとらわれず、ICTやDXの進化に伴い、地域リハビリテーションの新しいアプローチを模索しなければならない。そして、高齢者が自宅に閉じこもらずに、勇気を持って再び地域のコミュニティに参加する意義が込められているとのお話がありました。また、新たに日本リハビリテーション看護学会が主催団体に加わり、より多職種との連携を深める学会となりました。

講演では、「**共生社会**」「**対話**」「**主体性**」というキーワードが共通して強調されていました。

共生社会については、現在の日本は縦割りの活動が多く、異なる集団同士の隔たりが生じやすい状態にある。地域社会の原点に立ち戻り、高齢者や市民、障害を持つ方など枠組みに分けて活動するのではなく、すべての人が一緒に参加することに意味があり、そうすることで初めて、お互いを理解し合える共生社会が実現できるという指摘がありました。

対話では、支援の場において専門家や支援者がどうしても前面に立ちやすく、無意識のうちに指導や一方的な支援になりやすい。支援の際には、対象者に対して「傾聴・受容・共感」を大切にすることで、相手の本音を引き出すことができる。そこからが真の支援のスタートであると述べられていました。

主体性では、to doではなく、to beが重要である。to doは「やるべきこと」に焦点があたり、義務や誰かに強いられるタスクが中心になりやすい。一方、to beは「自分はこうなりたい」「こう生きたい」といった自己実現に基づく能動的な考え方である。支援者は、対象者が自ら意欲的に行動し活動できる環境を整えることが重要だとお話がありました。



今回の大会に参加し改めて、全世代の地域住民がその人らしく生き生きとした生活を送れるのか考える機会となりました。（吉澤）

日本高次脳機能障害友の会 第20回全国大会



「日本高次脳機能障害友の会第20回全国大会2024in福島」が10月4日、5日に郡山で開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で、都道府県を巡る形式での開催は4年ぶりとなりました。大会では、支援コーディネーター研修会や交流会、講演やシンポジウムが開催されました。

研修会では、ピアサポート活動について支援者、当事者、ご家族からの話や事例検討会が行われました。講演では、高次脳機能障害者支援法成立に向けた取り組み、症状の理解、さらにてんかんについての講演があり、シンポジウムでは福島での活動についての報告がありました。

支援コーディネーターとしては、他の支援拠点機関や当事者、家族の皆様とお会いできる貴重な機会となりました。今後も、このような場で得た学びを県内での支援活動に還元できるように努めていきたいと思います。（佐藤）



7.27(土) 在宅における循環機能低下のリスク管理

在宅生活を送る循環器リスクのある方に対し、疾病管理やリスク管理の考え方、生活場面でできる運動指導の工夫について、講義やグループワークを通じて学べた研修でした。

参加者の声:

具体的なフローチャートや測定基準方法があり実践にすぐに役立てられそうです。また、他施設の方と意見交換でき新しい発見がありました。

福島県立医科大学 保健科学部 理学療法学科 助教 岡崎 可奈子氏



9.7(土) 脳血管障がいの評価と治療

片麻痺の歩行をテーマに、評価の視点と治療技術を、講義やハンドリングを通して学びました。1日を通して実技の時間が多く、実際に体験(体感)することでより理解につながる研修でした。

参加者の声:

基本的なハンドリングを含め、身体図式について丁寧に考えるきっかけになり勉強になりました。また、セルフプラクティスを指導する上での注意点(口頭指示の仕方)を学ぶことができました。



Fリハビリテーション平塚
PT 藤井 誉行 氏

9.28(土) ADL支援の知識と実践

ADL(日常生活動作)支援を行う上で必要な知識や理論を発達の観点から学びました。動作分析や治療的誘導の方法などを実技を通して体験し、臨床現場で実践できる内容の研修でした。

参加者の声:

発達過程を踏まえた介入の仕方が今までにない新しい視点でした。動作や姿勢の変化を促す際に知覚を入力することの難しさや重要性を知り、患者さんに近い状態になって体験できたのはとても貴重な体験ができました。



JCHO 東京高輪病院
OT 松田 哲也 氏

9.29(日) 高次脳機能障がいセミナー 理解編 『基本的な理解とその対応』

医療・福祉・行政関係者・患者/家族等を対象に、見えづらく分かりづらいと言われる高次脳機能障がいについて、当事者のお話や医療・心理・生活・社会参加・制度利用といった側面から、それぞれの支援方法について学びました。

参加者の声

支援は手探り状態でしたが、しっかりとした支援の方針を学べました。また、当事者との関係づくりの大切さを改めて感じました。



神奈川リハ病院 医師 寺嶋、OT 沼田、
公認心理師 永山、コーディネーター 佐藤

10.8(火) 知的障害のある方への支援

リハビリ的な視点から知的障がいがある方への支援として身体機能の低下に対する対応や日常生活動作能力を維持するための工夫などについて学べる研修でした。

参加者の声

すぐ理解しやすく、いかに予防の大切さが必要なのかわかりました。また、行動分析のポイントがとても勉強になりました。



講師：国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法科 牛腸 昌利 氏
神奈川県立保健福祉大学 理学療法専攻 浅井 直樹 氏
合資会社ハートフルライフ PT 大塚 匠 氏

11・12・1月の専門研修予定

排泄ケアの知識と実践	11月 2日（土）	神奈川リハビリテーション病院
摂食嚥下障がいのある方への支援	11月14日（木）	プロミティあつぎ
褥瘡予防セミナー	12月 3日（火）	神奈川リハビリテーション病院
高次脳機能障がいセミナー 実務編	12月14日（土）	神奈川工科大学Tエクステンションセンター
高次脳機能障がいセミナー 就労支援編	1月18日（土）	神奈川工科大学Tエクステンションセンター
維持期における装具支援	1月25日（土）	神奈川リハビリテーション病院

地域リハビリテーション連携構築推進事業

今年度は、**逗子市** と **愛川町** で開催します。

テーマは「難病の支援と多職種連携について」

逗子市編

第一部ではパーキンソン病の初期の方に対する運動習慣の必要性について、保健福祉事務所、当リハセンターの協力について、またリハの専門職より各々の立場からお話をお聞きます。

第二部では難病(ALS、多系統萎縮症など)の方のコミュニケーションの方法、導入までの流れ、どういふ視点でどのような方法で取り組んでいくのか、多職種で取り組む必要性について説明を行います。また重度化していく方の生活支援について、介護保険のほかの諸制度についてもお話を盛り込んでいきます。

第1部

パーキンソン病の初期段階について各専門職から

令和6年 12月13日(金)14:00~16:00

- ・リハビリ専門職が考える運動習慣の確立
- ・保健福祉事務所の役割と取り組みについて
- ・各保健所でのリハビリ体操教室について

詳細はQRコード、HP
をご覧ください



第2部

難病の方のコミュニケーション支援についての考え方、進め方

令和6年 12月20日(金)14:00~16:30

- ・難病の方のコミュニケーション支援の考え方
- ・変化する生活の対応と諸制度について
- ・コミュニケーションツール、重度意思伝達装置に触れてみる

場 所

逗子市保健センター 3階大会議室(逗子市池子字棧敷戸1892-6)

* オンライン(Zoom)での参加も可能

令和6年
4月~9月末までの
専門相談実績

()の数字は訪問数

	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷(除CVA)	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他(切断・加齢等)	不明	合計
県央	6(4)	2	5(2)			3(1)	9(5)	4	2		31(12)
湘南東部	2		1		3(1)	7(2)	1			1	15(3)
湘南西部	5(1)	1			1		2(1)	3			12(2)
県西	1							1	1		3
横須賀・三浦	2	1	1					3	6(1)	3	16(1)
横浜市				1				10			11
川崎市											0
相模原市	1		1					2			4
県外			2								2
合計	17(5)	4	10(2)	1	4(1)	10(3)	12(6)	23	9(1)	4	94(18)

	障害者更生相談所	居宅介護支援事業所	市町村	地域包括支援事業所	本人・家族	障害者相談支援事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護事業所	保健福祉事務所	高齢者施設	訪問介護事業所	教育機関	その他	合計
県央					2	3	8(5)	4	2	5(4)	6(3)			1	31(12)
湘南東部				1	3		9(3)	1	1						15(3)
湘南西部		2(1)			4	2(1)	2	1		1					12(2)
県西		1		1	1										3
横須賀・三浦		1(1)		7	5	1				1	1				16(1)
横浜市					11										11
川崎市															0
相模原市					3		1								4
県外					2										2
合計	0	4(2)	0	9	31	6(1)	20(8)	6	3	7(4)	7(3)	0	0	1	94(18)

編集後記

猛暑も過ぎ去り、ようやく秋らしい季節になりました。気温の変化により体調を崩さないように気を付けて過ごしていきたいと思います。(吉澤)

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
☎ 046-249-2602
FAX 046-249-2601